

信濃川河川敷の砂利採取跡にてカワラサイコを確認

藤塚 治義*

※ 株式会社エコロジーサイエンス (新潟県長岡市)

新潟県長岡市浦地先の信濃川河川敷でカワラサイコ *Potentilla chinensis* Ser. を確認したので報告する。

カワラサイコは、「レッドデータブックにいがた」(新潟県2001)で、絶滅危惧Ⅱ類に指定されているバラ科の多年草である。日当たりのよい川原や砂地に生育する。新潟県における分布は「新潟県植物分布図集第9集」(植物同好じねんじょ会1988)に整理されているが、村上市、新潟市、巻町、刈羽村、大潟町、上越市、糸魚川市、相川町など(いずれも1988年当時の旧市町村名)の主に海岸に沿った箇所にかぎられ、内陸の分布点は小千谷市旭橋付近の信濃川河川敷のみである。

信濃川においては、国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所が、平成6年度、11年度に実施した「河川水辺の国勢調査」において、中魚沼市、小千谷市および長岡市域においてわずかに記録されているが、当時は本種が絶滅危惧種に指定されていなかったため、詳しい生育状況は不明である。平成16年度の調査では記録されていない。(国土交通省河川環境データベース)

昨年度の冬(2008-2009年)に、越路橋の下流の河川敷において大規模な砂利採取がおこなわれた。その際、河川敷が著しく掘り起こされ、大型の重機や砂利を運搬するトラックが頻繁に出入りした。その後、砂利採取終了後に埋め戻され、均された河川敷において本種の生育が確認されたものである。砂利採取や河川改修工事による河川敷の掘削後に埋土種子に由来すると思われる湿生植物等が生育することはしばしばみられることであり、本種もそのようにして生育したと思われる。

このように本来ならば洪水等の攪乱によって生じた礫河原が主な生育地となる植物にとって、砂利採取は洪水による攪乱を同等の効果をもたらしたと思われる。

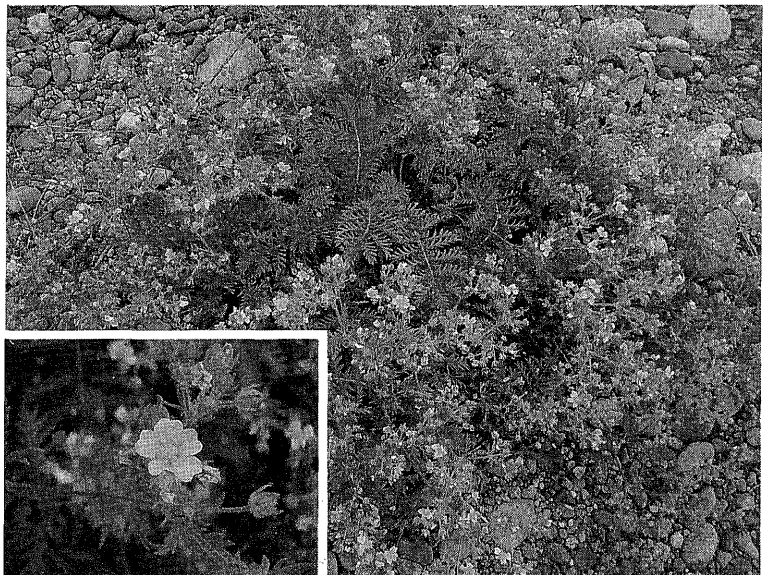
確認日：平成21年7月27日

確認地点：長岡市浦地先

信濃川越路橋下流右岸河川敷

確認数：4株

※ 生育数が4株のみであったため、繁殖のため標本の採集は行わず、種子散布を期待した。



参考文献：

新潟県(2001)「レッドデータブックにいがた」, 新潟県

池上 監修・石澤 編集(1988)「新潟県植物分布図集 第9集」, 植物同好じねんじょ会

国土交通省河川環境データベース(河川水辺の国勢調査)

http://www3.river.go.jp/index_seibutu.htm